

令和5年度 授業改善推進プラン

青梅市立西中学校

教科名

国語

科

1 生徒の実態

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> 授業では積極的に発言をしたり、学習課題に取り組んだり、学習に対して前向きな姿勢が見られる。 一方、例示や具体と抽象等文章の構造と抽象的な概念を理解・思考することがまだ苦手である。 課題には取り組み、提出している。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見、感想を長い文章で書くことが苦手な生徒がいる。 課題に取り組み、提出しようとする意欲が高い。 授業中の発言は活発で、意欲的に取り組む生徒が多い。 基礎的な国語力が定着しきっていない生徒と応用的な内容に取り組む生徒の差が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度は真面目で、指示した内容や取り組みに対して意欲的である。 主体的に学習しようとする生徒が一定数いる一方で、正しい文法力を用いて文を書くことができない生徒が少なくない。

2 指導上の課題

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、抽象的な概念で理解・思考し、文章の骨格を理解することが難しい。具体例に引っ張られる。 自分の意見を「書くこと」「話すこと」が苦手な生徒が多い。 発言や積極的なグループワークへの参加が少ない生徒は課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団で討論し、他者の意見を踏まえながら自身の考えを導く活動が少ない。 授業内の活動の際に、時間がかかってしまう生徒と、すぐに終わってしまう生徒の差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が主体的に国語に取り組めるように授業を考える。 自分の意見を順序立てて述べられるような書き方の指導を工夫する。 既習漢字、新出漢字など漢字で書けるところは漢字で書かせるように声掛けをする。

3 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> 他の文献や様々な補助教材を生かしながら、具体例を多く提示し、抽象的な概念を理解しやすくする。 作文の補助教材等を作成する。 学習課題で、自分の意見や考えを「書く」活動を多く取り入れる。 発言の少ない生徒は、ワークシートやノートの記事により評価できるよう、工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して、他者の意見を参考し、自身の意見を発表できるようにする。 文の構成を、板書を用いて視覚的に理解できるように工夫する。 活動内の目標を標準的なものだけでなく、発展・応用的なものも設け、幅広い学力を達成できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週、漢字テストを実施し、毎回直したり反復練習をする課題を与えたりすることで、知識の定着を図る。 自分の意見や感想文を書く時間を設ける。物語の読解を通して初読の感想を書く時間を設ける。 ICTやホワイトボードを用いて、筆者の意見を視覚的に分析できる取り組みを工夫して行う。